

公示

独立行政法人国際協力機構契約事務取扱細則（平成15年細則(調)第8号）（以下、「細則」という。）に基づき下記のとおり特定者以外に参加意思を有し、応募資格を満たす者の有無を確認する公示を行います。

2025年2月21日

独立行政法人国際協力機構  
北海道センター 契約担当役 所長

調達管理番号	25c00042000000
調達件名	2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」に係る研修委託契約
業務内容	別紙1「業務仕様書」による
契約履行期間	2025年4月30日～2025年10月31日（予定）
選定方法	参加意思確認公募（詳細は別紙1「業務仕様書」による）
特定者	公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター
応募資格	公示日において有効である全省庁統一資格を有すること。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められた者。 その他、細則参加資格及び業務仕様書に記載の応募要件に該当すること
参加意思確認書提出期限	2025年3月7日（金） 12:00（正午）
契約担当部署	北海道センター 研修業務課 電話番号：011-866-8393 メールアドレス：Matsumoto.Kenichi@jica.go.jp
その他	その他詳細は別紙1「業務仕様書」による
独立行政法人国際協力機構契約事務取扱細則参加資格	応募をもって、以下のいずれにも該当しないことに誓約したものとみなします。 (1) 当該契約を締結する能力を有しない者 (2) 破産手続き開始の決定を受けて復権を得ない者 (3) 独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程（平成24年規程(総)第25号）第2条第1項の各号に掲げる者 (4) 独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程（平

	成 20 年規程(調)第 42 号) に基づく契約競争参加資格停止措置を受けている者
情報の公表について	<p>本競争への参加を以て、選定結果情報、契約情報（法人、個人、団体名（共同企業体を結成する場合は共同企業体の構成員も同様）を含む）の公表に同意したものとみなします。</p> <p>機構の契約に関する情報の公表の基本方針は下記ウェブサイトの通りです。</p> <p>「公共調達に適正化に係る契約情報の公表について」  <a href="https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html">https://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/corporate.html</a></p>

以 上

2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」にかかる参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構北海道センター（以下、「JICA北海道」という。）は、以下の業務について、参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、開発途上国から研修員として日本に招いた上水道分野の中核を担う人材に対し、所定の案件目標を到達するべく、安全かつ安定した水道水の供給に必要な上水道に係る総合的な技術を習得するための研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター（以下、「特定者」という。）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算したうえで契約を締結する予定です

特定者は、2017年度以降、2024年度まで本コースを実施した実績があり、当コースの趣旨や目的、内容、講師や視察先等の関係者を熟知しており、研修実施に必要な官民学関係者の北海道のリソースを有しそのネットワークを活用して効果的なコースを企画・実施できる機関です。さらに、特定者は、草の根技術協力、「ウランバートル市送配水機能改善協力事業（実施期間：2016年1月～2018年12月）」及び「ネパール国ポカラ市給配水管理業務の体系化を目指した技術協力事業」（実施期間：2022年2月～2025年1月）」を受託した実績を有し、途上国の水道事情について、現地での知見・経験も備えています。

これらのことから、特定者は本コースを適切に実施し得る要件を備えています。が、特定者以外の者で以下の「2 応募資格」を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

## 1 業務内容

- (1) 業務名：2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」に係る研修委託契約
- (2) 案件概要：別紙2「研修委託業務概要」のとおり
- (3) 実施期間：2025年6月18日～2025年8月8日（予定）
- (4) 契約履行期間：2025年4月30日～2025年10月31日（予定）

## 2 応募資格

- (1) 基本的要件：
  - 1) 公示日において、令和04・05・06年度もしくは令和07・08・09年度全省庁統一資格の競争参加資格（以下、「全省庁統一資格」という。）を有する者。又は、当機構の審査により同等の資格を有すると認められた者。
  - 2) 会社更生法（平成14年法律第154号）又は民事再生法（平成11年法律第225号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。

- 3) 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」(平成20年10月1日規程(調)第42号)に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていないこと。具体的には以下のとおり扱います。
- ア. 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
  - イ. 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受け付けます。
- 4) 競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者(以下、「提出者」という。)は、以下のいずれにも該当しないこと、及び当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約していただきます。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。
- なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加資格を無効とします。
- ア. 提出者の役員等(提出者が個人である場合にはその者を、提出者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。)が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力集団等(各用語の意義は、独立行政法人国際協力機構反社会的勢力への対応に関する規程(平成24年規程(総)第25号)に規定するところにより、これらに準ずる者又はその構成員を含む。以下、「反社会的勢力」という。)である。
  - イ. 役員等が暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
  - ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
  - エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
  - オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
  - カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
  - キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
  - ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例(平成23年東京都条例第54号)又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。
- 5) 法人として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)(平成26年12月11日特定個人情報保護委員会)」に基づき、個人情報

及び特定個人情報等（※1）を適切に管理できる体制を以下のとおり整えていること。

（中小規模事業者（※2）については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。）

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

（※1）特定個人情報等とは個人番号（マイナンバー）及び個人番号をその内容に含む個人情報をいう。

（※2）「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野（金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野）の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

（2）その他の要件：

特にありません。

### 3 手続きのスケジュール

（1）参加意思 確認書の提出	提出期間	2025年3月7日（金）12:00（正午）必着
	提出場所	JICA 北海道 研修業務課
	提出書類	参加意思確認書、応募要件に該当する全省庁統一資格を有していない者は、参加意思確認書に記載の提出資料一式（写し可）
	提出書類	参加意思確認書（別紙3）、同確認書で提出を

		求められている資料等
	提出方法	メール
(2) 審査結果の通知	通知日	2025年3月14日(金)
	通知方法	メール
(3) 審査結果についての理由請求	請求場所	JICA 北海道 研修業務課
	請求方法	メール
	請求締切日	2025年3月21日(金)
	回答予定日	2025年3月28日(金)
	回答方法	メール

#### 4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等の提出書類は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の提出書類の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等の提出書類を、その審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書等の提出書類の差し替え、及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名による企画競争若しくは指名競争入札を行います。その場合の手続き詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して連絡します。
- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本通貨に限ります。
- (10) 契約保証金：免除します。
- (11) 共同企業体：共同企業体の結成を認めません。

以 上

## 2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」

### 研修委託契約 業務概要

#### 1. 研修コース概要

(1) 研修コース名：2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」

(2) 技術研修期間（予定）

【来日研修】2025年6月18日～2025年8月8日

(3) 研修員（予定）

1) 定員：9名

2) 研修対象国：ミクロネシア、バヌアツ、セネガル、モロッコ、リビア、ネパール（2名）、バングラデシュ（2名）

3) 研修対象組織・対象者

水道事業体や中央/地方政府において水道事業の計画や運営業務に携わる者

(4) 研修使用言語：英語

(5) 研修の背景・目的

水は地球上を循環している再生可能な資源であるが、人口や経済活動の増加による水需要の増加、生活水準の上昇による一人当たりの水使用量原単位の増加、都市化の進行による都市での集中的な水需要の増加等により、水需給は逼迫しつつある。しかしながら、都市給水においては、水道事業体のサービス水準の低さ、それに対する市民の不満と水道事業体に対する信頼の欠如、非効率な事業運営、資金不足が悪循環のように連鎖している。

この研修では、こうした状況を打破し、サービスの改善、運営の効率化、料金収入の確保、投資の確保という好循環に転換して成長軌道に乗せ、水道事業体の運営・経営の改善のための能力を強化することを目的として実施する。

(6) 案件目標

研修参加者は、安全かつ安定した水道水の供給に必要な上水道に係る「水源」から「蛇口」までの総合的な知見を得、効果的な水道事業体の運営・経営の改善を実現するために必要な知識とスキルを習得する。

(7) 単元目標（アウトプット）

1) 水源・取水

給水計画、水源・取水に関する技術と知見を深める。

2) 浄水・水質

浄水処理・水質管理に関する技術と知見を深める。

3) 導送配水

漏水対策、給配水に関する技術と知見を深める。

#### 4) 管理・経営

水道事業、管理行政に関する諸制度や関連団体の機能・役割について知見を深める。

#### 5) 水道基本計画

配水管網ならびに浄水処理システムの基本計画の策定ができるようになる。

### (8) 研修内容

#### 1) 研修項目

【事前学習】カントリーレポート作成

【知見共有・討論】カントリーレポート発表

【講義・視察】日本の水道に関わる行政制度、事業者の中長期的事業計画策定時の留意点、水道経営と水道料金、官民連携、水道資機材製造工場の見学、公衆衛生研究機関の役割、災害対策、浄水処理概論、配水施設の運転管理、漏水防止対策

【演習】水理計算、水需要予測、水道基本計画、アクションプラン作成

【発表・討論・その他】アクションプラン発表、人的コネクション形成

#### 2) 研修方法

ア. 講義

イ. 演習／実習

ウ. 見学・研修旅行

エ. レポートの作成・発表

#### 3) 当機構が実施するプログラム

ア. 集合ブリーフィング

来日時事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を、通常来日の翌日に実施する。

イ. ジェネラル・オリエンテーション

技術研修に先立って、日本滞在中の必要知識として、日本の政治・経済、歴史、社会制度等についてオリエンテーションを行う。

## 2. 委託業務の内容

### (1) 契約履行期間（予定）

2025年4月30日～2025年10月31日

（この期間には、事前準備・事後整理期間を含みます）

### (2) 業務の概要

開発途上国から招いた研修員に対し、水道事業にかかる知識、事例・経験の紹介と討議を通じて、効果的な水道事業が為されるための知識の習得を支援する。



### (3) 詳細

- 1) 研修日程調整及び研修詳細計画書の様式を用いた日程案の作成
- 2) 講師・見学先・実習先の選定
- 3) 講義依頼、講師派遣等依頼及び教材作成依頼文書の作成・発信
- 4) 教材の複製や翻訳についての適法利用の確認
- 5) 講師・見学先への連絡・確認
- 6) JICA、省庁、他関係先等との調整・確認
- 7) 講義室・会場等の手配
- 8) 使用資機材の手配
- 9) テキストの選定と準備（翻訳・印刷業務含む）
- 10) 講師への参考資料（テキスト等）の送付
- 11) 講師からの原稿等の取付、配布等の調整、教材利用許諾範囲の確認及び JICA への報告
- 12) 講師・見学先への手配結果の報告
- 13) 研修監理員との連絡調整
- 14) プログラム・オリエンテーションの実施
- 15) 研修員の技術レベルの把握
- 16) 研修員作成の技術レポート等の評価
- 17) 研修員からの技術的質問への回答
- 18) 研修旅行同行依頼文書の作成・発信
- 19) 評価会、技術討論会（各種レポート発表会含む）の準備、出席
- 20) 閉講式実施補佐
- 21) 研修監理員からの報告聴取
- 22) 講義・見学謝金支払い、明細書送付を含む諸経費支払い手続き
- 23) 業務完了報告書作成、経費精算報告書作成
- 24) 関係機関への礼状の準備・発信、資材資料返却

### 3. 留意事項

- (1) 当機構は、本研修コース実施にあたって英語－日本語の逐次通訳等を行う研修監理員を1名配置予定です。研修監理員は、JICAが実施する研修員受入事業において、JICA、研修員及び研修実施機関の三者の間に立ち、当該言語を使用しつつ（通訳）、研修員の研修理解を促進し、研修効果を高め、研修進捗状況を現場で確認する等、研修コースでの現場調整を行う人材です。JICAは登録された研修監理員の中から、研修コースごとに研修コースの特性等を勘案し、諸条件を提示して個別に業務を発注します（委任契約）。
- (2) 研修員及び同行者（上限1名）の研修旅行にかかる国内移動・宿泊については、当機構が別途委託している旅行会社が手配を行います。

- (3) 本業務概要は予定段階のもので、詳細については変更となる可能性があります。
- (4) 研修員受入事業及び研修委託契約の概要を含む研修委託契約の各種ガイドライン、契約書等については、以下 JICA HP を参照願います。

[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr\\_japan/guideline.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/guideline.html)

以 上

参加意思確認書

独立行政法人国際協力機構  
北海道センター 契約担当役  
所長 阿部 裕之 殿

提出者 (所在地)  
(貴社名)  
(代表者役職氏名)

2025年度課題別研修「上水道施設技術総合(B)」に係る参加意思確認公募について応募要件を満たしており、業務への参加を希望しますので参加意思確認書を提出します。

記

1 全省庁統一資格（令和04・05・06年度もしくは令和07・08・09年度全省庁統一資格を有する場合）

登録番号：

2 添付資料（令和04・05・06年度もしくは令和07・08・09年度全省庁統一資格のいずれも有していない場合）

(1) 組織概要

※組織概要について記載すること（パンフレット等で代用できる場合は、パンフレットを添付すること）。

(2) 登記事項証明書（写）（法務局発行の「履行事項全部証明書」、発行日から3ヶ月以内のもの）

(3) 財務諸表（写）（申請日直前1年以内に確定した決算書類）（写）

(4) 納税証明書（写）（その3の3、発行日から3ヶ月以内のもの）

以上